

特化し、福岡展開を強化

来年創業30周年、九州一円に拠点整備



表紙の人 Cover Story **藤田 章**
大福物流 社長

ふじた あきら / 1945(昭和20)年10月15日生まれ、73歳。島根県益田市出身。島根県立益田産業高校(現・益田翔陽高校)卒業後、大阪の象印マホービン(株)入社。その後、一般貨物運送事業・重機運搬運送事業の(有)八興貨物(現(株)ファミリー八興)勤務を経て、2000年に大福物流入社。08年社長就任。趣味はDIY、旅行、スポーツ全般、カメラ

「食品物流」に

一般貨物自動車運送事業や倉庫業を軸に、熊本から九州一円に向け、幅広く事業展開している(株)大福物流(甲佐町白旗、藤田章社長)。1990(平成2)年に創業・設立以来、一貫して「食品物流」に特化した事業を展開する同社では、「競争」から「協業」を掲げ、同業他社との提携やM&A(企業の買収・合併)を積極的に推進。今後2〜3年以内には新たに福岡県への進出も計画している。「来年は創業30周年。流通を下支えするドライバーたちが世間に認められる環境を作り上げ、魅力ある会社づくりを目指したい」と語る藤田社長に、物流マーケットの現況や今後の展開などを聞いた。(5月7日取材、聞き手/熊本地域経済センター社長・櫻木俊孝、文・構成/編集部・堀悟史)

**19年4月期売上高は67億円見込む
今期は約70億円を計画**

―2019年4月期の決算の見通しと今期の見込みを。
藤田 2019年4月期決算のグループ全体の売上高は67億円で、経常利益は1億6,777万円を見込んでいます。昨年12月に大型トレーラーによる海上・鉄道コンテナの輸送業務を展開する江富運輸(株)(熊本市北

区植木町滴水、江富聡社長)をM&A(企業合併・買収)でグループ化しましたので、今期は68億円から70億円程度の売上高と2億円弱の経常利益になるのではないのでしょうか。
―「人」への投資を積極的に行っているそうですね。
藤田 近年、働き方改革や人

口減少による人手不足が叫ばれています。当社には「労働集約型産業」の当社は特に人材確保が重要な課題です。このため、3年ほど前から「人への投資」を最優先に考え、できる限り従業員へ利益を還元するなど大幅な賃金アップ

90年に木村の物流部門から独立 県内は甲佐町の本社ほか5拠点

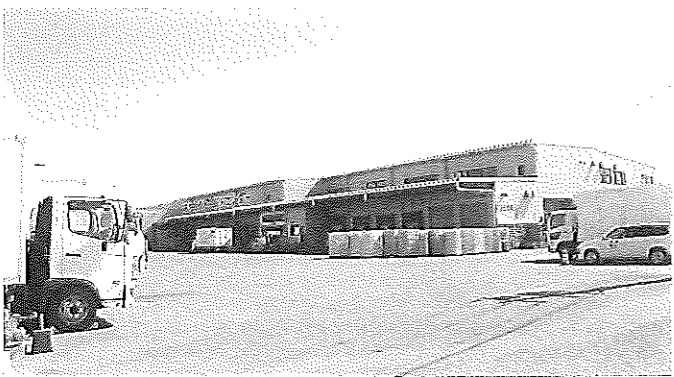
―次に会社概要をお尋ねします。

藤田 もともとは親会社である総合食品商社の(株)木村(熊本市南区流通団地2丁目、木村光男社長)の物流部門を担っていましたが、「商物分離」の一環で90(平成2)年8月に一般貨物自動車運送事業、倉庫業を展開する(有)大福物流として独立しました。同年9月に本社を流通団地から甲佐町芝原へ、そして04年に現在地へと移転し、02年に株式会社組織変更しました。

当社は「食品物流」に特化し、冷凍運送(マイナス18度以下)、チルド運送(5度〜10度)、定温運送(常時20度)、常温運送の4温度帯に対応した人・トラック

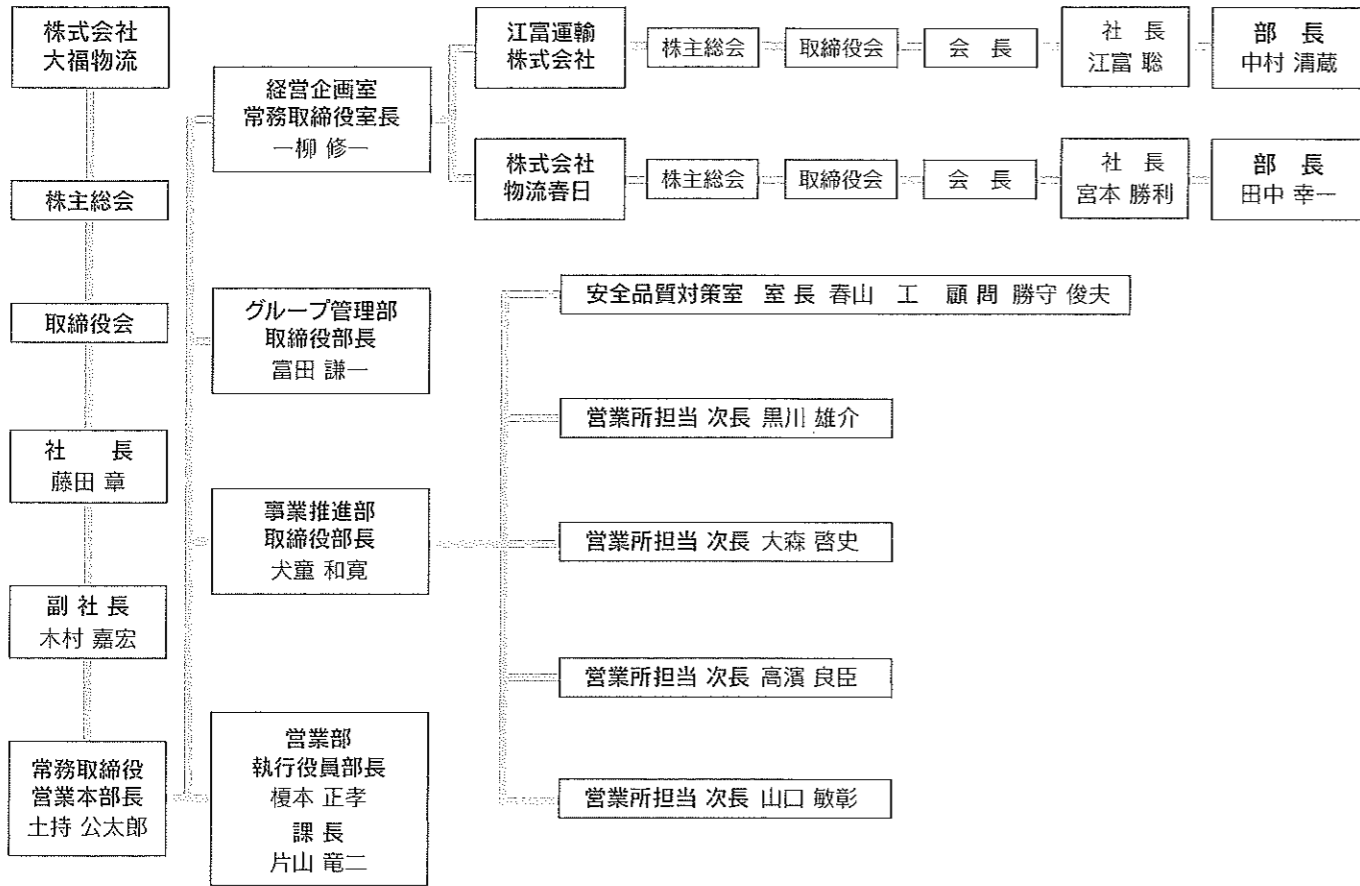
プを図ってきました。このため単体で毎年1億円程度確保していた経常利益は、18年4月期は6千万円にとどまりましたが、人への投資が功を奏し、19年4月期はこれまで同様の経常利益を確保できる見込みです。

センター・配送網を整備し、コンビニエンスストアやスーパーマーケット、食品メーカー、小



▲甲佐町白旗の大福物流本社センター

大福物流 組織図



役員



大福物流 社長
藤田 章



大福物流 常務
— 柳 修一 —



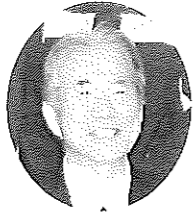
大福物流 常務
(営業本部長)
土持 公太郎



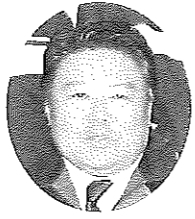
大福物流 取締役
(事業推進部長)
犬童 和寛



大福物流 取締役
(グループ管理部長)
富田 謙一



江富運輸 社長
江富 聡



物流春日 社長
宮本 勝利



サンエックス 社長
(大福物流副社長)
木村 嘉宏

※大福物流非常勤取締役で木村光男(木村)社長、木村登美子(木村)社務が在籍



▲保有車両台数は大福物流単体で229台、グループ合計で377台にのぼる

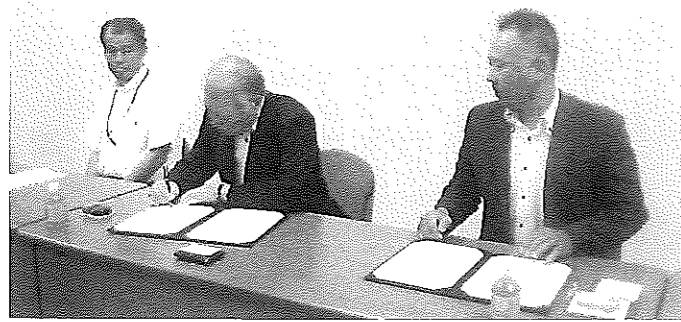
売店舗へ配送しています。資本金は8千万円、保有車両台数は229台(冷凍・チルド車184台、ドライ・保冷車45台)です。事業拠点や関連会社は、藤田 事業拠点は、県内では本社のほか、16年に稼働した菊陽営業所(菊陽町辛川)、甲佐営業所(甲佐町白旗)、熊本流通団地営業所(熊本市南区流通団地2丁目)、御船営業所(御船町田見)の5拠点です。特に菊陽

営業所は総事業費10億円を投じた大型の食品物流センターを併設し、県内外から冷凍、チルド食品、弁当を集め、総車両80台を配したセンターで仕分け後、当社の主要配送先である大手コンビニエンスストア(県内約350店)に配送しています。福岡では、福岡久山営業所(粕屋郡久山町)、福岡CVSセンター(福岡市東区みなと香椎2丁目)、福岡松島営業所(同市東区松島5丁目)、戸原営業所(粕屋郡粕屋町)の4拠点。このほか長崎営業所(大村市)、大分営業所(大分市)、南九州営業所・宮崎事業所(宮崎市)、南九州営業所・鹿児島事業所(鹿児島市)、広川事業所(八女郡広川町)と、ほぼ九州一円に事業所を置いています。また、関連会社には食品関係、チルド、冷凍物流と建設機械輸送を行う(株)サンエックス(甲佐町白旗、木村嘉宏社長、雑貨、木材、建築資材、家具などの運送を行う(株)物流春日(同地、宮本勝利社長)、そして昨年12月にM&Aでグループ化した、大型トレーラーによる海上・鉄道コンテナの輸送業務を展開する

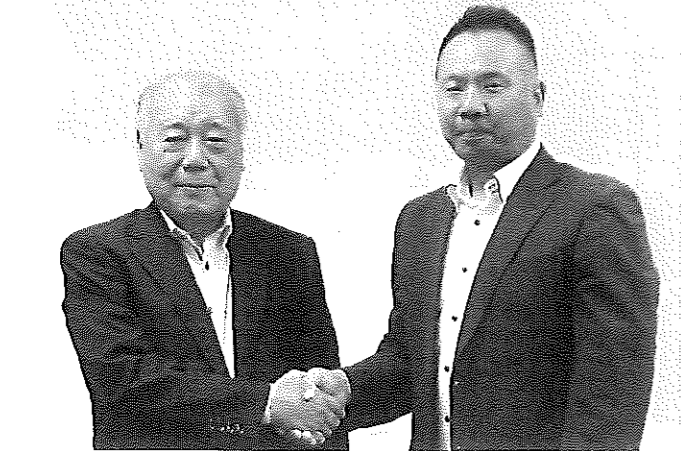
江富運輸(株)があります。グループ全体の社員数は準社員、派遣社員、パートを含め約1200人です。食品物流の「プロ」を目指す。一さまざまな物流事業を展開されていますね。藤田 物流ドライバーは、一括りの「運転手」として一般の方に認識されるかもしれませんが、「荷扱い」の種類で移動距離やトラックの規模、ドライバーの資格などの実態は大きく変容します。このため一つの企業ですべての荷扱いを担うのではなく、別企業をM&Aでグループ化することで、各社の特徴を生かした事業を展開しています。当社はもともと「食品物流のプロを目指す」という目標を掲げ、営業活動を行ってきました。時には引越や建築資材の配送といった業務のオフアートをいただくこともありましたが、「食品に特化する」という原点を貫き、食品以外の業務は一切お断りし、今日まで歩んできました。一主な取引先は、藤田 親会社の(株)木村のほ



▲県内では本社ほか、2016年に稼働した菊陽営業所(菊陽町辛川、写真右)のほか、甲佐営業所、熊本流通団地営業所、御船営業所(写真左)の5拠点を整備



▲昨年8月に(株)ファミリー八興と締結した「包括的業務提携」



▲握手を交わす藤田社長(左)と泉哲也ファミリー八興社長(右)

らつしやれば、積極的にM&Aを行っていきたくですね。
 —実際に業務提携も行われて
 いますね。
藤田 はい。昨年8月29日、同業の(株)ファミリー八興(熊本
 市南区富合町、泉哲也社長)と
 事業全般にわたり「包括的業務
 提携」を行いました。人手不足
 や燃料費高騰など物流業界を取
 り巻く環境が厳しさを増す中、
 将来へ向け企業を安定的に成長
 させつつ、また各社が保有する
 経営資源や技術・情報をより有
 効に活用し、さらなる経営発展

を目指すためです。
 業務提携後も各社の経営は独
 立採算制としていきます。ともに
 九州全域を営業エリアとし、大
 手コンビニエンスストアを主要
 顧客にしていますが、今回のよ
 うに食品物流を主力とする会社
 同士の業務提携は県内で初めて
 のことでした。両社間で人、モ
 ノ、情報すべてを共有し、業務
 の効率化を図りながら、互いの
 強みをさらに強固なものにして
 いきたいと考えています。
 —物流マーケットへの新規参
 入は。

—人材育成や従業員の働く環
 境改善が大きなテーマですね。
藤田 生意気なことを言うよ
 うですが、物流業界のイメージ
 アップと地位を向上させたいと
 強く思っています。流通を下支
 えする隠れた存在の物流ドライ
 バーたちは、豪雨や台風のよう
 な悪天候でも24時間365日止
 める訳にはいかず、決して華や
 かな仕事ではありません。特に
 当社ではコンビニへの配送業務
 も行っていますので、熊本地震
 では自宅が全壊したにも関わら
 ず、配送を続けてくれたドライ
 バーもいます。
 そんな経験から、サービスを
 享受する一般の方々には物が手

業界のイメージアップと地位向上へ 従業員の労働環境改善を

藤田 最近ほとんどありま
 せん。小泉政権下の「道路運送
 法」の改正で規制緩和が進み、
 タクシー業界、物流業界では新
 規参入が相次ぎました。ただマ
 ーケットが限られていますので
 小規模な企業は淘汰され、私た
 ちのところにも同業他社から

元が届く喜び、物流の大切さを
 感じていただき、ドライバーた
 ちが世間に認められる環境を作
 り上げたいと思っています。イ
 メージアップや地位向上で物流
 業界そのものが変わり、高校生
 や大学生が卒業後に「ぜひ物流
 会社に入社したい」と思えるよ
 うな魅力ある会社づくりを目指
 しています。
 当社ではその一環で人材確保
 に向けた労働環境の改善に着手
 しています。具体的には年間休
 日を90日から107日に増や
 し、県内の同業者では珍しい完
 全週休2日制にしたほか、賃上
 げや労働時間の短縮、社内研修
 室の新設など、社員の待遇見直



▲櫻木(株)地域経済センター社長のインタビューに答える藤田社長

か、コンビニ向けベンダー事業
 の(株)フリジポート(東京都千代
 田区神田小川町)、総合食品商
 社の(株)日本アグセス(同品川区
 西品川1丁目)、食品商社のヤ
 マエ久野(福岡市博多区博多
 駅東2丁目)、食品物流企業の
 キューソーティス(東京都調
 布市)、森永乳業グループの物
 流会社(株)九州テイリーサービス
 (福岡県三井郡大刀洗町)などが
 主要取引先で、このほか約60社
 と取引をいただいています。

—今後の重点地域は。
藤田 九州管内の市場を見る
 と、やはり福岡県は外せません。
 2〜3年前から同県にウエイト
 を置き、今後2〜3年以内に新
 たな物流拠点の強化を考えてい
 ます。また、親会社の関係で広
 島県にも子会社のサンエックス
 の営業拠点を開設しています
 が、3年目ようやく黒字化を
 果たしました。今後は福岡と広
 島を軸に、さらに業績を拡大さ
 せたいと考えています。
 —福岡拠点の概要は。
藤田 3年後くらいをめど
 に、福岡市に隣接する土地約13

—売上比率は。
藤田 福岡の売り上げが全体
 の4〜5割を占めています。ま
 た1200人いるグループ全体
 の従業員のうち、約4割が福岡
 に在籍しています。
 —今年の10連休の影響は。
藤田 工場やメーカーなどが
 10日近くも業務を休止する前例
 がないゴールデンウィークでし
 たので、休暇前の集荷は膨大な
 量でした。一方で後半は集荷が
 比較的落ち着いていましたの
 で、集荷の波が非常に激しくな
 ったですね。

—積極的展開するM&Aや業
 務提携について。
藤田 基本的には物流マーケ
 ットは「競争」から「協業」の時代
 ヘシフトしないとイケません。
 顧客が増える間は競争できます
 が、前述したように人口減少で

M&Aで互いの強み生かす 12月にはファミリー八興と業務提携

物流マーケットの顧客は今後増
 えないだろうと予測していま
 す。同業他社からM&Aの情報
 をいただくと、そのほとんどが
 後継者不足です。生産性向上を
 図るため、今後も互いの長所や
 短所をカバーし合える企業がい

万2千㎡を取得し、約3万3千
 ㎡規模の物流センターを建設す
 る計画を進めています。
 —本社機能を福岡に移す考え
 は。
藤田 営業拠点となる「営業
 本部」を福岡に移す可能性は大
 いにあると思いますが、物流業
 で本社機能を移すまでのメリッ
 トはあまりないのではと思っ
 ています。
 —今後の物流マーケットの展
 望は。
藤田 近年、少子高齢化が叫
 ばれています。この先、高齢化
 は収束するかもしれませんが、
 人口減少は止まらず、モノの動

きやモノを消費する量は明らか
 に落ちてくるだろうと推察して
 います。狭まりを見せる物流マ
 ーケットでどう生き残っていけ
 るかが大きなポイントです。今
 後は競争相手である物流の同業
 他社と、業務提携などで「協業」
 する時代が訪れるのではと思っ
 ています。ドローンなどの最先
 端機器が目覚ましく発展する時
 代ですが、物流は必ず人の手で
 動くことだと感じています。こ
 のため将来にそこまで大きな不
 安は感じていませんが、自社の
 仕事だけを他社から奪い取るの
 ではなく、同業他社としっかり
 手を組み、お互いの良さを生か
 しながら将来を乗り切っていけ
 ればと思っています。



▲象印マホービン(働勤務時代(25歳)。前列左端が藤田社長

強く希望していました。ただ東京オ

身で、「山陰の小京都」と言われる津和野町のすぐ近くです。祖父は大工で、父親は農業を営んでいました。1945(昭和20)年10月15日生まれ、73歳で、高校は島根県立益田産業高校(現・

益田翔陽高校)の卒業です。4人きょうだいの長男で姉と妹がいます。—高校卒業後はどちらに就職されましたか。藤田 大阪市象印マホービン(株)に就職しました。入社当時は魔法瓶が中心でしたが、その後炊飯器や電気ポット、ホットプレートなどの調理器具を製造販売、35歳で退職するまで17年間務めました。仕事内容は主に生産技術開発といった業務を行っていました。学生時代からバレーボールが好きで、もともと日本リーグで活躍していた大手鉄鋼メーカーの日本鋼管(後のNKK、現在のJFEホールディングス)のパレーボールチーム入部を

強く希望していましたが、ただ東京から熊本へ来られた経緯は。藤田 象印を80年(35歳)に退職しましたが、その理由は弟と従兄弟が山口県で経営している建設会社とホテルの手伝いを頼まれたからです。ホテルは宴会や婚礼がないビジネスホテルでしたので、宿泊者への接客対応以外は比較的余暇があり、何か別な仕事をやりたいと徐々に感じて始めていました。その後経営がある程度軌道に乗ったところで弟に、「新たな仕事を始め

空き缶回収装置販促で熊本へ

たいから家を出たい」と相談している時、象印時代に知り合った方から連絡をいただきました。この方は山口在住で「カン食い虫」という、プレス機を内蔵した屋外設置型の空き缶回収装置を開発し、全国に販売していました。このカン食い虫を購入した熊本の方が思うように販路拡大ができずに困っているの



▲(働)八興貨物勤務時代、同僚たちと。(左端が藤田社長、当時46歳)

で、「熊本で販促を手伝ってもらえないだろうか」という申し出を受けたのが熊本に来たきっかけでした。



▲若い世代の育成のため、社員研修や教育の整備を進める同社。写真は研修で従業員に訓示する藤田社長



▲グループの2019年度入社式。今年度は大卒1人、専門学校卒1人、高等技術専門学校卒1人、高卒2人の合計5人の新入社員が仲間に加わった

しを積極的に進めています。—社員研修や教育などは。藤田 当社は直近10年で売上高が約10倍に増加し、80人だった従業員がグループ全体で1200人に拡大するなど急成長を遂げてきました。本来であれば社内の従業員をコソコソと教育し人材育成を図ることが理想ですが、社員教育が会社の成長スピードに追いつかず、やむを得ず外部から優秀な社員を確保してきました。ここ数年でようやく研修や教育体制が整備され、

新卒の定期採用も6年ほど前から開始し、基礎の形が見えてきた。今後は次の世代を支える若い人材が育っていくのでもと期待しています。(働)木村から商物分離で独立する際には「商流」側の従業員が物流に籍を置き、当時3K(きつい、汚い、危険)と言われていた物流の業務をなかなか理解していただけず、何人もの従業員が退職していった過去がありました。人の育成に苦勞した過去があったからこそ、「一人に投

資を」という点に重きを置いています。—藤田社長が目指す会社像とは。藤田 会社は社長のものではなく、従業員たちのものです。従業員のお子さんやお孫さんが入社し、親子2代、3代で勤められるような会社、良い緊張感を持つて仕事ができる会社、そして「大福物流と出会って良かった」と言われる会社を目指しています。そのために従業員をどうやって幸せにできるかが大きな目標です。—今後の展開は。藤田 当分は市場の見込みがある福岡に全力を注ぎたいと思っています。中途半端な出方をしても他社との差別化や競争には勝てませんので、進出するならば設備のスケールや人員などある程度の規模が必要だと感じています。

島根県出身、益田産業高校卒 象印マホービンや八興貨物に勤務

—最後に藤田社長のプロフィールを伺います、出身はどちら

社運をかける相当な覚悟で投資を行いたいですね。—来年が創業30周年になりますね。藤田 創業30年は企業の節目でもありますので、社内外さまざまな行事を行い、会社全体の機運を高めていきたいですね。今後社内プロジェクトチームを作り、記念事業を計画していきます。また、社員の満足度向上や魅力ある企業づくりの一環で、来春には「硬式野球部」も設立する予定です。現在は監督を中心に、選手の獲得準備を進めています。当社では女子サッカーチーム「熊本ルネサンスフットボールクラブ」ともスポンサー契約をしています。全社挙げてチームを応援する企業風土を構築し、従業員やその家族が堂々と「大福物流の社員です」と言えるようなブランド力を作り上げていきたいですね。

藤田 島根県西部の益田市出



▲相模湖カントリークラブ(神奈川県)で行われた「キューソー会親善ゴルフ大会」でプレーする藤田社長(2008年、62歳)

で進み、約半年で結婚しました。現在は2人暮らしですか。
藤田 妻は少し足を悪くしており、今は故郷の山口県で家族と暮らしています。「多少不便でも熊本にいます」と話していましたが、両親や兄弟、甥や姪と一緒に過ごした方が妻にとっても落ち着くのではと山口に連れていきました。するとその後すぐに熊本地震が発生し、私が会社から離れられない日々を送らざるを得なくなりました。あの時、多少無理をしても山口に連れて行ったのは間違いではなかったと思っています。先日のゴー

ルデンウィークには山口に足を運び、妻たちと数日間過ごしてきました。親戚や友人たちと外出することがとても楽しいようで、「多少不便でも熊本にいます」と話していたのが、いつの間にか「当分そつちには帰らない」と言っていました(笑)。
私は24時間365日、トラブルが起きれば夜中であっても会社に駆けつける仕事漬けの日々を送ってきました。このため妻をどこにも連れて行くことができず、苦労させました。少しずつでも恩返しをしていかねばと思っています。

趣味は何ですか。
藤田 ゴルフをよく楽しんでるので、あまり積極的に人を誘ってプレーしようとは思っていません。
もしかすると根っから好きではないのかなど思っています。そのほかDIYやスポーツ全般の観戦、田舎や海辺などへ旅行にも行きます。また、最近ではカメラに凝っています。撮影されるのが嫌なので、撮影する方に徹していますね(笑)。自分自身が感じたものや風景をレンズに収めることは非常に面白く、現在はカメラ

趣味は旅行、DIY、ゴルフ、カメラ

4台を所有し、テクニクを磨いています。ただ最近のカメラは昔と違って多機能なので、使いこなすのに苦戦しています。



▲キューソー創栄会の会合にて。(後列中央が藤田社長)

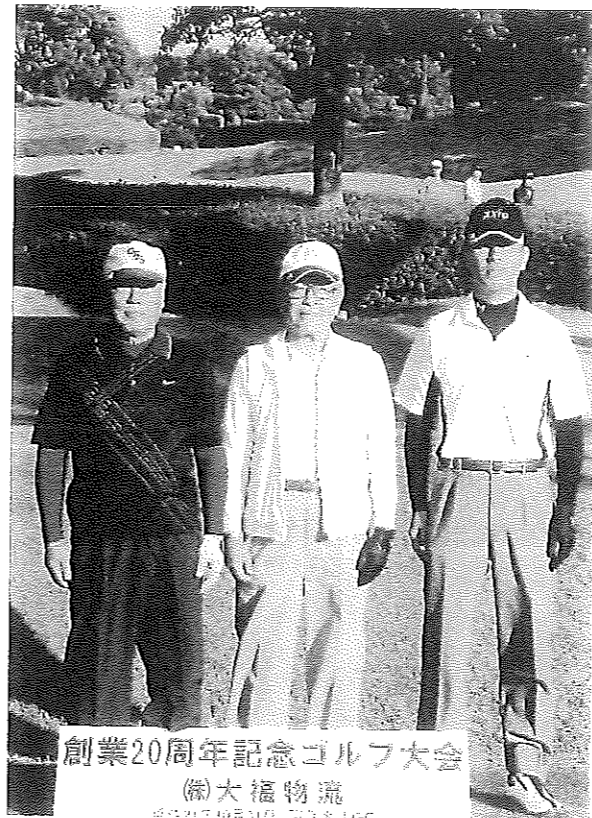
「思いがけない来熊でしたね。仕事は順調にいったのですか。」
藤田 まずは皆さんにその利便性を感じていただくため、カン食い虫を江津湖公園に寄贈したく役場へ出向きました。公園からすれば空き缶をきれいに回収でき、さらに缶の散乱を防ぐ



▲従業員の結婚式で職場の仲間と記念撮影する藤田社長(前列左)と夫人のきよのさん(中列左)、当時61歳。

二般貨物の仕事を始めるから手伝わないかという打診をされたことがきっかけでした。熊本はビジネスがしやすい土地だというイメージの反面、常に先頭に立って皆を引っ張っていかなければならないという責任感も感じていました。八興貨物ではドライバーなどの業務を18年

大きなメリットがあります。公共性もあり、担当者にも非常に好印象でした。保護団体の「江津湖を守る会」からも了承を得て、スムーズに設置に至りました。このおかげで、熊本県内で10台を販売することができました。
その後、57年にアルバイトで熊本の運送会社、八興貨物(現在のファミリー八興)に入社されます。きよかけは。
藤田 カン食い虫の販促活動をする中で「面白い人物がいる」という話を聞いた八興貨物の方から、



▲2009年に開いた「大福物流創業20周年記念ゴルフ大会」。(左が藤田社長、63歳)

(アルバイト含む)勤め、09年に大福物流に入社しました。
73年に職場結婚
結婚はいつですか。
藤田 象印時代の73年、28歳の時に5歳年下の妻・きよのと職場結婚しました。当時は恋愛そつちのけでバレーボールに熱中していましたので、異性への興味はさほどありませんでした。ただ年齢を重ねるにつれて周りから「そろそろ身を固めろ」と勧められ、工場長から紹介された女性がなんと私が密かに好意を寄せていた妻だったのです。そこから話ほとんどん拍子



▲女子プロゴルファーの原江里菜さん(中央)、豊永志帆さん(右から2人目)と一緒に記念写真。左から2人目が藤田社長(2014年、68歳)